

認知症の進行と
具体的な支援の例②



人生七転び八起き 『一人暮らしの花子さんの例』



代表的なアルツハイマー型認知症の進行例

進行の例

自立

ご主人を亡くされマイペースで暮らしています。

毎日、たいへん。



認知症の疑い

息子に同じ用事で何度も電話をかけ、息子さんも「おかしいな」と思うことがあります。



認知症を有するが日常生活は自立

最近、鍋を焦がすことが増えて、冷蔵庫の中には同じものばかり…。



誰かの見守りがあれば日常生活は自立

お財布や鍵をなくすことが増えました。食事が上手に作れなくなり、お風呂に入ることも億劫になってきました。



日常生活に手助け・介護が必要

息子さんが訪問すると、ゴミがたまっている汚れた服のままの花子さんの様子にびっくり。



常に介護が必要

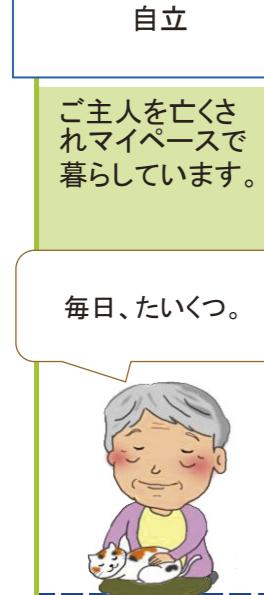
トイレが分からず、お風呂場や台所に排泄をすることが増えました。自分で行動する意欲が減って寝ていることが多くなりました。



本人の様子の例

支援の例

ポイント



一緒に外に出ましょうよ。

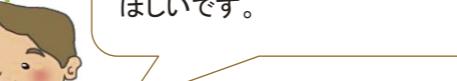
定期的に訪問しますよ。

薬で認知症の進行を遅らせることもできます。

介護保険を申請しましょうか？

家にきて家事を手伝ってもらったり、外出できるようになってほしいです。

家庭的な雰囲気の施設ならば、グループホームもいいですね。



ご近所さん

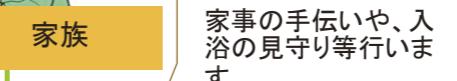
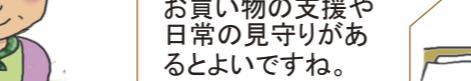
介護予防教室、サロンに参加しました。知り合いが増えて楽しいわ♪

あんしんセンターに相談してみては？

お買い物の支援や日常の見守りがあるとよいですね。

家事の手伝いや、入浴の見守り等行います。

ショートステイ定期巡回・随時対応型訪問介護看護など



公民館のサークル楽しみ♪

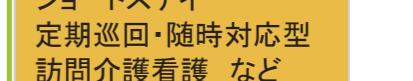
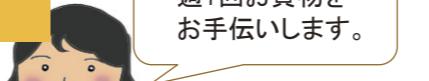
「あんしん見守りシステム」をつけませんか？

「あんしん見守りシステム」をつけませんか？

週1回お買い物をお手伝いします。

配食サービス

ショートステイ定期巡回・随時対応型訪問介護看護など



・家中に閉じこもりらずに、体を動かしたり、他者との交流を心がけましょう。

・ひとり暮らしの人や認知症が心配な人は、かかりつけ医や高齢者あんしんセンターに相談しましょう。

・友人、民生委員、区長さん等周囲の人人がいつもの様子と違うことに気づいたときは、高齢者あんしんセンターに相談しましょう。

・早めに受診しましょう。受診し治療を行うことで、認知症の進行を遅らせることができます。

・まだ自分でできることがあります。周囲の人が対応方法を工夫し、本人ができる事を活かしましょう。

・できないことが増えたり、徘徊、性格が変わる等認知症の進行は見られますが、専門医への相談で認知症の症状が軽減することもあります。

・介護サービスやボランティアなど必要な支援が受けられるよう、高齢者あんしんセンターやケアマネジャーに相談しましょう。

・これまで普通にできていたことができなくなると、本人は自信を失います。それを指摘することや、本人の役割を取り上げることは症状の悪化につながることがあります。さりげなく手助けすることを心がけましょう。

・見守りや声かけ等の支援があれば、家での生活を続ける事が可能です。

・まだ自分でできることがあります。周囲の人が対応方法を工夫し、本人ができる事を活かしましょう。

・介護サービスやボランティアなど必要な支援が受けられるよう、高齢者あんしんセンターやケアマネジャーに相談しましょう。

・生活全般に介護が必要になると、認知症のケアと共に、全身の健康管理も必要になります。

・一人暮らしのが難しくなるため、生活の場をどこにするのか、あらかじめ本人の意向を確認しておくことが必要です。

・友人、民生委員、区長さん等周囲の人人がいつもの様子と違うことに気づいたときは、高齢者あんしんセンターに相談しましょう。

・これまで普通にできていたことができなくなると、本人は自信を失います。それを指摘することや、本人の役割を取り上げることは症状の悪化につながることがあります。さりげなく手助けすることを心がけましょう。

・見守りや声かけ等の支援があれば、家での生活を続ける事が可能です。

・まだ自分でできることがあります。周囲の人が対応方法を工夫し、本人ができる事を活かしましょう。

・介護サービスやボランティアなど必要な支援が受けられるよう、高齢者あんしんセンターやケアマネジャーに相談しましょう。

認知症の症状や状況により支援方法は様々です。ひとつの例としてご参考ください。